

日 時 平成28年11月11日（金）

10:35～11:25

1 単元名 責任をもって働こう～木工製品を作ろう～

2 単元について

本単元では、販売活動に向けて木工製品の製作に取り組む。「お客さんに喜んでもらう製品づくり」を意識することは、丁寧で正確な作業につながると考える。そして、それは主体的にセルフチェックをしようとする意欲を育てることにもつながると考える。また、役割分担を通して生徒同士で報告や依頼等のやりとりをすることは、働く場に相応しい言葉遣いを身につけることにつながると考える。

本作業部は、単一障がい学級の1年生3名、2年生1名、3年生2名の計6名で構成されている。障がいの程度は様々だが、全体的な実態として、言葉だけの指示よりもポイントとなる部分について視覚的な手がかりがある方が、指示された内容に取り組みやすい様子が見られる。将来の働く力につなげるための「働く力チェックリスト」に基づいた実態把握からは、手順の正確さや製品の仕上がりをセルフチェックすることに課題のある生徒が多いことがわかった。生徒Aは手早く作業を進めることができるが、十分にチェックをしないで報告してしまうことがある。生徒Bはセルフチェックしようとする意欲はあるが、チェックのポイントを具体的に示す必要がある。生徒Cは何をチェックするのかは理解しているが、工程中のどのタイミングでチェックすればよいのか判断することが難しい。また、多くの生徒が指導者に対しては適切な言葉遣いで報告や質問ができるようになりつつあるが、生徒同士のやりとりで働く場に相応しい言葉遣いができるまでには至っていないことがわかった。

指導にあたっては、はじめは指導者が一緒に作業をしながらチェックの方法やポイントを伝え、徐々に生徒が主体的に取り組めるようにしていく。そのために、丁寧な作業を意識するうえで必要な部分の写真を提示したり、具体的なチェックポイントやタイミングを手順書に記載したり、適切な言葉遣いの例を掲示したりすることで、生徒が自分で視覚的に確認できるようにしたい。また、直接関わる指導者の数を減らし、生徒が指示書や掲示物を使って自分で確認する機会を増やすことで、主体的に取り組む場面を増やしたい。さらに、工程ごとに役割を固定することで同じ手順で繰り返し取り組めるようにし、個々の課題を重点的かつ継続的に改善できるようにしていきたい。

3 単元目標

- 手順の正確さや製品の仕上がりをセルフチェックすることができる。
- 働く場に相応しい言葉遣いで友だちに報告や依頼をすることができる。

4 単元指導計画（全50時間）

- 第一次 お客さんに喜んでもらえる、安全な製品づくりをしよう（12時間）
- 第二次 お客さんに喜んでもらえる、丁寧な製品づくりをしよう（本時11／24時間）
- 第三次 お客さんに喜んでもらえる、きれいな製品づくりをしよう（12時間）
- 第四次 販売活動をしよう（2時間）

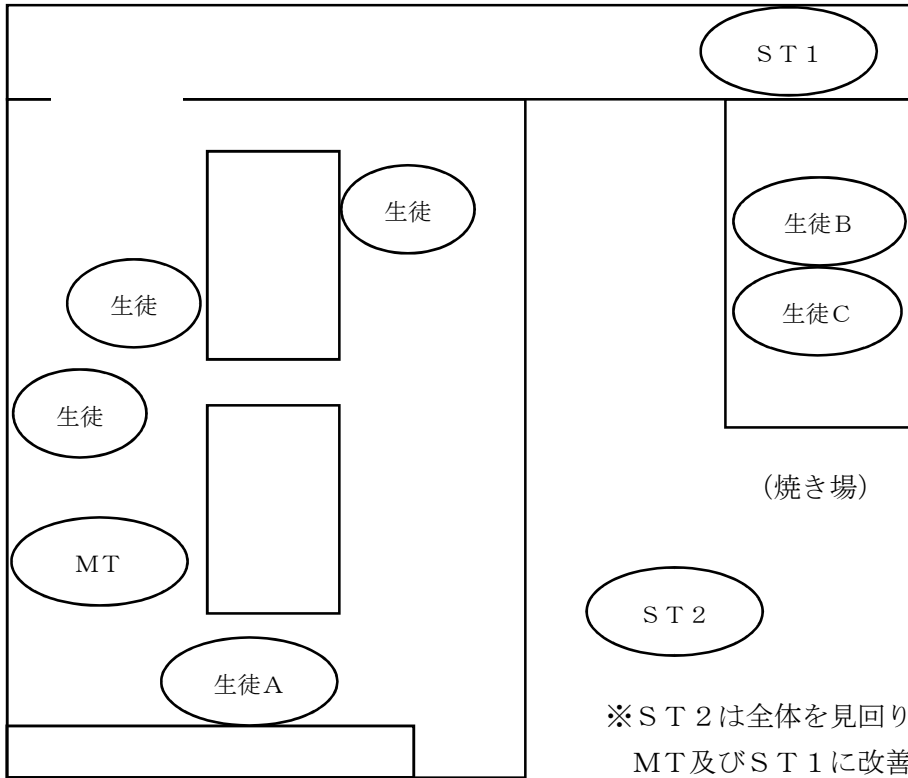
5 本時の目標

生徒	本時の目標	個別の指導計画目標
生徒A	○自分がした仕事内容を手順書で確認してから報告することができる。 ○次の工程を担当する友だちに対して適切な言葉遣いで依頼をすることができる。	○セルフチェックをしてから報告をすることができる。
生徒B	○ポイントを手順書で確認しながらセルフチェックすることができる。 ○次の工程を担当する友だちに対して適切な言葉遣いで依頼をすることができる。	○製品のチェックポイントを自分で確認しながら作業に取り組むことができる。
生徒C	○チェックと報告のタイミングを手順書で確認し、実行することができる。 ○次の工程を担当する友だちに対して適切な言葉遣いで依頼をすることができる。	○セルフチェックをしてから報告をすることができる。

6 本時の展開

学習活動	○つきたい力	★教師の支援	◆評価
1 身支度をする。		★全員の学習態勢が整ったことを確認して日直に声をかける。	
2 あいさつをする。			
3 仕事内容とめあての確認、準備をする。		★全体のめあてや個々の仕事内容を視覚的に提示する。	
4 作業に取り組む。 ・バーナーで木材に焼き色をつける。 (生徒B、C) ・木材を洗って炭を落とす(生徒A) ・ブラシを使って木材の煤を落とす。 ・木材に鉛筆で印をつける。 ・マイターソーで木材を切る。 ・ボール盤で木材に穴をあける。	○(A) 自分がした内容を手順書で確認してから報告することができる。 ★(A) 自分がした内容を確認するためのチェック欄を手順書に記載する。 ○(B) ポイントを手順書で確認しながらセルフチェックすることができる。 ★(B) 何をチェックするのかのポイントとチェック欄を手順書に記載する。 ○(C) チェックと報告のタイミングを手順書で確認し、実行することができる。 ★(C) タイミングがわかりやすいように、色分けをしたスケジュールを手順書に記載する。		◆報告前に手順書のチェック欄を使って内容を確認できたか ◆手順書を使ってチェックポイントを確認できたか ◆手順書に示されたタイミングでセルフチェックと報告ができたか ◆友だちに報告や依頼をする際に、場面にあった言葉遣いができたか
5 片付け、掃除をする。		○友だちに対して適切な言葉遣いで報告や依頼をすることができる。 ★報告や依頼の場面に合った言葉遣いの例を掲示する。	
6 振り返りをする。		★個々の良かった点を全体の前で称賛する機会を設定する。	
7 あいさつをする。			

7. 場の設定 (作業中)



(木工室)

※ST2は全体を見回りながらポイントを録画しMT及びST1に改善点等を伝える。